

松 山 大 学 論 集
第 24 卷 第 3 号 抜 刷
2 0 1 2 年 8 月 発 行

自学習の学習方法に対するやる気に影響を与える
学習者要因に関する研究

——スピーキングの学習方法に焦点を当てて——

池 上 真 人

自学習の学習方法に対するやる気に影響を与える 学習者要因に関する研究

— スピーキングの学習方法に焦点を当てて —

池 上 真 人

キーワード：日本人大学生，英語学習方法，学習意欲

1. 研究の背景

本研究の目的は、学習者の学習方法に対する学習意欲がどのような要因によって影響を受けるのかを明らかにすることである。特に本研究では、自主学習を行う際の英語を専門としない大学生学習者の学習意欲に焦点を当てている。なぜなら外国語を専門にしていない大学生にとっては、週に数コマしかない英語関連の授業のみで英語の熟達度を上げることは非常に難しく、英語のスキルを伸ばすには自主的な学習が不可欠であるからである。またそれと同時に、自主的な学習を行う際には授業などの場合よりもさらに学習意欲を持たせることが重要になってくる。自主的に学習をするよう促すためには、まず学習方法に対してやる気を持たせなければならない。つまり、学生がやる気になるような学習方法を提示してやる必要があるのである。では教師は何に基づいて学習方法を薦めれば、学生にやりたいと思わせることができるのであろうか。多くの英語教師は、学生から英語の勉強法を尋ねられた経験を持っているだろう。尋ねられた教師は自らの経験や知識を元に学生にアドバイスをしているのではないと思われるが、しかしながら、そのように教師から薦められた学習方法を喜んで実行しようとする学生がいる一方で、同じ学習方法でもあまりや

りたがらない学生がいることも事実である。全く同じ学習方法でも、学生によって反応が異なることはある意味当然とも言える。また教師が薦める学習方法と学生が望む学習方法の間に乖離があることも考えられる。例えば、英字新聞を読んだり、英語のラジオ放送を聴いたりすることは、昔から教師によって薦められてきた学習方法であると考えられるが、青木他（2001）によると、それらは、学生たちには役立つとは思われているがあまりやりたい気持ちを持たれている学習方法ではない。このように学生によって「やりたい」と思う学習方法が異なるということは、学生は何らかの内的な基準を元に、提示された学習方法を「やりたい」「やりたくない」と判断しているのであると考えられる。それらの基準を明らかにすることができれば、学生に「やりたい」と思われるような学習方法を薦めることができる可能性を示すことができるのではないかと考えられるのである。

2. 先行研究の概観

学習方法に対する研究は主に学習者がどのように学習するかという視点から研究されてきた。そのため、多くの研究は Naiman ら（1978）や Oxford らの一連の研究（Eherman and Oxford 1988；Oxford and Nyikos 1989；Oxford 1989；など）に代表されるような「学習方略」に関わる分野で研究されてきたと言える。これらの学習方略とは、単語をどのように記憶するか、自分自身の発話をモニタリングするなど、個々人の学び方に焦点を当てたものであり、本研究が対象としている学習方法自体を扱ったものではない。一方で、学習方法自体について扱われる場合は、竹内（2003）のように、学習の成功者がどのような学習方法で学び、学ぶ際にどのような学習方略を用いたかなど、学習成功者がどのような学習方法を行ったのかという視点からの研究が見られるが、どのような学習者がどのような学習方法を好むのかに関する研究はほとんどない。青木らによる一連の研究（青木他 2001, 2002a, 2002b, 池上他 2002, 2003, 2011, 池上 2007）では、学習者が好む学習方法について研究がなされ、学習方法に

含まれるどのような要因が、学習者が学習方法をやりたいと思うかどうかの決定に影響を及ぼしているのかを明らかにしている。しかしながら、どのような学習者がそれらの要因のうちのどれに大きく影響されるのか、つまりどのような学習者がどのような学習方法を好むのかはまだ明らかになっていない。そのため、本研究では、学習者のどのような属性が学習方法を決定する要因に影響を与えるのかを検討することを目的としている。

青木他を始めとする一連の研究では、学習者に様々な英語学習方法を提示し、それらの学習方法に対する学習意欲等を調査している。そして調査結果より、学習意欲を左右する学習内容に関わる要因として、(1)コミュニケーション活動の有無、(2)学習内容に対する興味の有無、(3)負荷の軽重、(4)役立つと思われるかどうか、の4つが想定されること、またそれらの要因には学習目標と英語力の自己評価が影響を与えており、学習目標の高低によってやりたいと感じる学習方法が変わることなどが示されている(青木 2001, 2002a, 2002b, 池上 2003)。また学習内容に関わる要因に加えて、周囲の学習環境や学習者のこれまでの学習習慣、計画性などからなる「学習環境・習慣に関わる要因」があることも示されている(池上他 2011)。さらに、ある学習方法に対する学習意欲を少しでも高めるためには、その学習方法を継続できる、つまり「やれそうだ」と感じさせることが重要であること、また発表技能に関しては、英語を使うことに対する不安を取り除き、学習の中で達成感を感じさせることが重要であることが示されている(池上他 2003, 池上 2007, 池上 2011)。

3. 調査手法

調査対象者は4年制大学の1年生104名である。データ収集には質問紙を用い、授業の中で実施した。調査対象としたのはスピーキングとリスニングで、学習方法として取り上げたのは、スピーキングが「音読や表現の暗記」と「チャットルームへの参加」、リスニングが「CD付の問題集」と「映画やドラマ、インタビューなどを聴く」である。「チャットルーム」については、なじ

みのない学生のために「ネイティブスピーカーの先生のところに行って、他の学生と共に英語で話をする」という解説を入れた。これらの学習方法を取り上げたのは、先行研究から学習意欲を左右する要因に対比的な影響を及ぼす学習方法であると考えられたからである。本論文では、このうち、スピーキングの学習方法に焦点を当てて分析している。

質問項目は、学習者の学習志向に関する特性を問う項目10項目、学習者の英語学習に対する意識に関する項目6項目、学習方法についての認知的評価に関する項目各3項目である(表1, および付録参照)。まず学習志向に関する特性については、先行研究を参考に「実践と学習」「効果と興味」「他者からの評価」「計画性」「教師への期待」の5つの要因に関係する項目を各2項目作成し、事前に複数の学生にインタビュー調査をすることにより項目を修正して作成した。また質問紙調査実施上の制限より、項目数を多く設定することができなかつたため、対比する項目を1項目にまとめ、2択によって答える方式としている(表1参照)。英語学習に対する意識については、「スピーキングの学習が好きか(以下「好き」)」「自分の英語が外国人に通じるかについて、どのくらい自信があるか(以下「自信」)」「スピーキングがどの程度必要な技能か(以下「必要」)」「どのくらいスピーキングができるようになりたいか(以下「希望」)」「スピーキングの勉強をしたい気持ちはどの程度か(以下「意欲」)」の5項目を設定し、学習志向と同じくインタビュー調査によって内容を修正し、「自己評価と他者からの評価のズレ(以下「ズレ」)」を加えた6項目を最終的に採用した。学習方法に対する認知的評価については、学習方法ごとに、学習意欲を問う「その学習方法をどの程度『やりたい』と思うか(以下「やりたい」)」という項目のほか、先行研究から学習意欲に影響を与えることがわかっている「その学習方法をどの程度『やれそう』と思うか(以下「やれそう」)」と「その学習方法をどの程度『役立ちそう』と思うか(以下「役立ちそう」)」の2項目を加え、各3項目を設定した(付録参照)。

4. 結果と考察

学習志向に関する特性についての項目の度数を表1に、スピーキングの学習に対する意識に関する各項目の平均値と標準偏差、および相関係数を表2に、学習方法に対する認知的評価の各項目の平均値と標準偏差、および相関係数を表3に示す。なお各項目は全て反転させた後の数値を用いて算出している。

まず学習志向に関する特性についての集計結果を見ると、特性4, 7, 8に大きな偏りが見られた。特性4, 8についてはある程度想定された結果と言えるが、特性7については予測よりも大きな差が見られた。次に、表2に示された各項目の平均値を見ると、スピーキングの学習に対する意識においては、「必要」の項目と「希望」の項目の平均値が4.0を超えており、また「意欲」の平均値も3.5を超えている。その一方で「自信」についての項目は2.0程度と

表1 学習志向に関する特性の各項目の度数

| | A | N | B | N |
|----|-------------------------|----|---------------------|----|
| 1 | 先に勉強してから実践したい | 66 | 実践を通して勉強したい | 38 |
| 2 | 間違いを少なくしてから実際に使いたい | 53 | 実際に使いながら間違いを直していきたい | 51 |
| 3 | 興味がなくても役立つことを勉強したい | 31 | 自分の興味のあることを中心に勉強したい | 73 |
| 4 | 勉強は楽しくやりたい | 88 | 勉強に楽しさは求めない | 16 |
| 5 | 周りからの評価が気になるほうだ | 73 | あまり人の評価は気にならないほうだ | 31 |
| 6 | 勉強中なら人前で間違ふことはあまり気にならない | 37 | できる限り人前で間違ふことは避けたい | 67 |
| 7 | 計画的に時間を決めて勉強をするほうだ | 16 | やる気がある時に勉強するほうだ | 88 |
| 8 | どちらかと言うと自分に厳しい方だ | 16 | どちらかと言うと自分に甘い方だ | 88 |
| 9 | 教材は決められているほうがよい | 62 | 教材は自分で選べるほうがよい | 42 |
| 10 | 先生にだいたいノルマや目標を決めてもらいたい | 56 | 目標やノルマは自分で決めたい | 48 |

表2 スピーキング学習に対する意識の各項目の平均値と標準偏差、および相関係数

| | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 自信 | .50 | | | | | |
| ズレ | .31 | .32 | | | | |
| 必要 | .21 | -.11 | .08 | | | |
| 希望 | .28 | -.14 | .01 | .63 | | |
| 意欲 | .59 | .25 | .21 | .49 | .51 | |
| M | 2.84 | 2.02 | 2.52 | 4.00 | 4.13 | 3.56 |
| SD | 1.06 | 0.81 | 0.81 | 0.89 | 0.80 | 1.04 |

※各項目の内容は付録を参照のこと

表3 学習方法に対する認知的評価の各項目の平均値と標準偏差、および相関係数

| | 音読や表現の暗記 | | | チャットルームへの参加 | | |
|-------|----------|------|-------|-------------|------|-------|
| | やりたい | やれそう | 役立ちそう | やりたい | やれそう | 役立ちそう |
| やれそう | .65 | | | .59 | | |
| 役立ちそう | .34 | .23 | | .51 | .22 | |
| M | 2.99 | 3.11 | 3.57 | 3.06 | 2.83 | 4.05 |
| SD | 1.00 | 0.88 | 0.87 | 1.01 | 1.02 | 0.92 |

低いことがわかる。標準偏差はどれも1.0を超えていないため、調査対象者全体としてはスピーキングについてはあまり自信がないが、その技能は必要であり、できるようになりたいと思っていることが示されていると言える。また各項目間の相関係数を見ると、「好き」と「自信」、「好き」と「意欲」の間に比較的高い相関が見られる。これはスピーキングにある程度の自信がある学生はスピーキングの学習が好きで、学習意欲もあると考えることができる。また「必要」「希望」「意欲」の3項目間にも比較的高い相関が見られるが、スピーキングの技能が必要であるから、できるようになりたいと思うし、学習意欲もあると考えることができ、これらは想定されていた結果と言えるだろう。

表3に示されている各学習方法に対する認知的評価の平均値をt検定を用い

て比較したところ「やりたい」の項目は学習方法間に有意差はみられず、「やれそう」に関しては「音読や表現の暗記」の方が有意に高く、「役立ちそう」に関しては「チャットルームに参加」の方が有意に高かった。つまり、全体的には、音読や表現の暗記をするのは、やれそうだけど役立つかどうかはわからず、チャットルームに参加するのは役立ちそうだけれども、あまりやれそうにないと考えられていると言える。また各項目間の相関係数を「やりたい」を中心にしてみると、「音読や表現の暗記」については「やれそう」と高い相関を示しており、「チャットルームへの参加」は「やれそう」「役立ちそう」のどちらとも高い相関を示している。すなわち、どちらの学習方法もやれそうと思う学生ほどやりたいと思っており、チャットルームへの参加については役立ちそうと思っている学生ほどやりたいとも思っていることが示されたと言える。

次に各学習方法に対する認知的評価とそれ以外の項目との関係を分析した。表4は認知的評価とスピーキング学習に対する意識の各項目との相関係数を示しており、表5は各学習志向の特性ごとに認知的評価の平均値と標準偏差、およびt検定の分析結果を表している。

表4は学習方法ごとの認知的評価と学習に対する意識の相関を示しているが、特徴的なのは「音読や表現の暗記」においては学習に対する意識は「やりたい」とも「やれそう」とも相関関係が示されていない一方で、「チャットル

表4 学習に対する意識と学習方法に対する認知的評価の相関係数

| | 音読や表現の暗記 | | | チャットルームへの参加 | | |
|----|----------|------|-------|-------------|------|-------|
| | やりたい | やれそう | 役立ちそう | やりたい | やれそう | 役立ちそう |
| 好き | -.03 | .03 | .23 | .42 | .53 | .20 |
| 自信 | .10 | .09 | .03 | .44 | .45 | -.01 |
| ズレ | .13 | .19 | .13 | .12 | .20 | -.01 |
| 必要 | .01 | -.01 | .34 | .04 | .22 | .09 |
| 希望 | .09 | -.07 | .41 | .25 | .21 | .36 |
| 意欲 | .23 | .29 | .33 | .41 | .41 | .25 |

表5 学習志向に関する特性ごとの学習方法に対する認知的評価の平均値と標準偏差

| | 特性1 (実践と学習) | | 特性2 (間違いと実践) | | 特性3 (興味と効果) | | 特性4 (楽しさ) | | 特性5 (周囲の評価) | | |
|-------|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | A (N=66) | B (N=38) | A (N=53) | B (N=51) | A (N=31) | B (N=73) | A (N=88) | B (N=16) | A (N=73) | B (N=31) | |
| やりたい | 音読 | 3.03 (0.96) | 2.92 (1.08) | 3.00 (1.02) | 2.98 (0.99) | 3.32 (1.06) | 2.85 (0.95) | 3.02 (1.01) | 2.81 (0.98) | 2.96 (1.07) | 3.06 (0.81) |
| | CR | 3.08 (1.00) | 3.03 (1.05) | 2.83 (0.91) | 3.29 (1.06) | 3.23 (1.09) | 2.99 (0.98) | 3.18 (0.99) | 2.37 (0.89) | 3.04 (0.98) | 3.10 (1.11) |
| | 差 | -.05 (1.01) | -.11 (1.47) | <u>.17</u> (1.22) | <u>-.31</u> (1.12) | .10 (1.42) | -.14 (1.08) | -.16 (1.21) | .44 (0.96) | -.08 (1.22) | -.03 (1.14) |
| やれそう | 音読 | <u>3.20</u> (0.90) | 2.95 (0.84) | <u>3.11</u> (0.97) | 3.10 (0.78) | 3.06 (0.89) | <u>3.12</u> (0.88) | 3.14 (0.86) | 2.94 (1.00) | 3.05 (0.93) | 3.23 (0.76) |
| | CR | 2.77 (1.01) | 2.92 (1.05) | 2.58 (0.87) | 3.08 (1.11) | 2.94 (1.03) | 2.78 (1.02) | 2.89 (1.03) | 2.50 (0.89) | 2.77 (0.98) | 2.97 (1.11) |
| | 差 | .42 (1.31) | .03 (1.28) | .53 (1.46) | <u>.02</u> (1.09) | .13 (1.43) | .34 (1.26) | .25 (1.29) | .44 (1.46) | .29 (1.34) | .26 (1.26) |
| 役立ちそう | 音読 | 3.59 (0.89) | 3.53 (0.83) | 3.57 (0.87) | 3.57 (0.88) | 3.71 (0.86) | 3.51 (0.87) | 3.64 (0.85) | 3.19 (0.91) | 3.52 (0.93) | 3.68 (0.70) |
| | CR | 4.12 (0.89) | 3.92 (0.97) | 3.91 (1.02) | 4.20 (0.78) | 3.97 (0.95) | 4.08 (0.91) | 4.23 (0.72) | 3.06 (1.24) | 4.05 (0.97) | 4.03 (0.80) |
| | 差 | -.53 (1.01) | -.39 (1.10) | -.34 (1.18) | -.48 (0.87) | -.26 (1.15) | -.58 (0.99) | -.59 (0.97) | .13 (1.26) | -.53 (1.13) | -.35 (0.80) |
| | 特性6 (人前での間違い) | | 特性7 (計画性) | | 特性8 (自己管理) | | 特性9 (教材選択) | | 特性10 (目標決定) | | |
| | A (N=37) | B (N=67) | A (N=16) | B (N=88) | A (N=16) | B (N=88) | A (N=62) | B (N=42) | A (N=56) | B (N=48) | |
| やりたい | 音読 | 3.11 (0.97) | 2.93 (1.02) | 3.00 (1.16) | 2.99 (0.98) | 3.25 (1.00) | 2.94 (1.00) | 2.92 (0.98) | 3.10 (1.03) | 2.95 (0.98) | 3.04 (1.03) |
| | CR | 3.43 (1.04) | 2.85 (0.94) | 3.06 (0.77) | 3.06 (1.05) | 3.00 (0.82) | 3.07 (1.05) | 2.97 (1.01) | 3.19 (1.02) | 3.07 (1.01) | 3.04 (1.03) |
| | 差 | -.32 (1.06) | .07 (1.25) | -.06 (1.12) | -.07 (1.21) | .25 (1.24) | -.13 (1.18) | -.05 (1.19) | -.10 (1.21) | -.12 (1.21) | .00 (1.19) |
| やれそう | 音読 | 3.16 (0.83) | 3.07 (0.91) | 2.94 (1.00) | 3.14 (0.86) | 3.13 (0.98) | 3.10 (0.87) | 3.00 (0.85) | 3.26 (0.91) | 3.04 (0.83) | 3.19 (0.94) |
| | CR | 3.11 (1.10) | 2.67 (0.94) | 2.75 (0.86) | 2.84 (1.05) | 3.19 (1.05) | 2.76 (1.01) | 2.73 (0.98) | 2.98 (1.07) | 2.80 (1.03) | 2.85 (1.01) |
| | 差 | .05 (1.08) | .40 (1.42) | .19 (1.38) | .30 (1.31) | -.06 (1.29) | .34 (1.31) | .27 (1.16) | .29 (1.52) | .23 (1.32) | .33 (1.31) |
| 役立ちそう | 音読 | 3.59 (0.87) | 3.55 (0.88) | 3.75 (0.58) | 3.53 (0.91) | 4.13 (0.62) | 3.47 (0.87) | 3.66 (0.77) | 3.43 (0.99) | 3.57 (0.78) | 3.56 (0.97) |
| | CR | <u>4.19</u> (0.81) | <u>3.97</u> (0.97) | 4.06 (0.77) | <u>4.05</u> (0.95) | 4.00 (0.63) | 4.06 (0.96) | <u>4.06</u> (0.89) | <u>4.02</u> (0.98) | <u>4.07</u> (1.01) | <u>4.02</u> (0.81) |
| | 差 | -.59 (0.96) | -.42 (1.09) | -.31 (0.87) | -.51 (1.07) | .13 (0.72) | -.59 (1.06) | -.40 (0.88) | -.60 (1.25) | -.50 (1.16) | -.46 (0.90) |

※1 左側括弧外が平均値, 右側括弧内が標準偏差

※2 音読=音読や表現の暗記, CR=チャットルームへの参加

※3 色つき=音読-CR間に有意差有り (5%水準)

※4 色つき+大文字下線=AB間に有意差有り (5%水準)

ームへの参加」においては「やりたい」「やれそう」共に「好き」「自信」「意欲」との間に相関関係が見られていることである。つまり、相手がいる学習方法については、その技能に対する好みや自信、学習意欲が関わっている可能性が示されていると言える。「役立ちそう」については、「音読や表現の暗記」において「希望」との間にやや相関関係が見られるのみだが、「チャットルームに参加する」の方はそもそも「役立ちそう」の平均値が高く、好みや自信などに関係なく役立ちそうと思われるために相関関係があまり見られなかったのではないかと考えられる。

表5を見ると、各特性のAB間で「やりたい」「やれそう」「役立ちそう」のいずれかに有意差（5%水準，以下全て5%水準）があったのは2，3，4，6，8の5特性であった。また各特性のABそれぞれの集団内で「音読や表現の暗記をする（以下「音読」）」と「チャットルームに参加する（以下「CR」）」の2つの学習方法の間に有意差が見られたのは「やれそう」では1，2，3，6，7，8の6特性、「役立ちそう」では10特性全てであり、「やりたい」にはどの特性の集団も有意差を示さなかった。また「音読」と「CR」の差を検定したところ、特性2，4，8で有意差が見られた。さらに、スピーキング学習に対する意識の項目の平均値と標準偏差を各特性のABごとに算出しt検定を用いて比較したところ、特性の2，3，4，6，8の5項目で有意差のある項目が検出された（表6）。

「やりたい」の項目でAB間に差があった特性は、2，3，4，6であった。この中で「音読」において差があったのは特性3のみである。Aは「興味があっても役立つことを勉強したい」を選んだ学習者の集団であるが、表6からはBの「自分の興味のあることを中心に勉強したい」を選んだ集団よりも「自信」と「意欲」が有意に高い数値を示していることがわかる。特性3については有意差はないが「CR」についてもAの方が「やりたい」の数値が高い。そのため、学習意欲の差が結果的に「音読」のやりたい気持ちの差に表れたのではないかと考えられる。

表6 特性のABごとのスピーキング学習に対する意識の項目の平均値と標準偏差

| | | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|-----|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 特性2 | A | 2.58 (1.06) | 1.83 (0.78) | 2.49 (0.80) | 3.94 (0.86) | 4.11 (0.77) | 3.40 (1.03) |
| | B | 3.10 (1.00) | 2.22 (0.81) | 2.55 (0.83) | 4.06 (0.93) | 4.16 (0.83) | 3.73 (1.04) |
| 特性3 | A | 2.97 (1.02) | 2.29 (0.94) | 2.61 (0.62) | 4.06 (0.73) | 4.19 (0.65) | 3.84 (0.80) |
| | B | 2.78 (1.08) | 1.90 (0.73) | 2.48 (0.88) | 3.97 (0.96) | 4.11 (0.86) | 3.44 (1.12) |
| 特性4 | A | 2.95 (1.07) | 2.03 (0.81) | 2.57 (0.79) | 4.03 (0.84) | 4.26 (0.70) | 3.65 (1.03) |
| | B | 2.19 (0.75) | 1.94 (0.85) | 2.25 (0.93) | 3.81 (1.17) | 3.44 (1.09) | 3.06 (1.00) |
| 特性6 | A | 3.19 (0.97) | 2.27 (0.84) | 2.73 (0.65) | 3.89 (0.97) | 4.11 (0.91) | 3.78 (1.03) |
| | B | 2.64 (1.07) | 1.88 (0.77) | 2.40 (0.87) | 4.06 (0.85) | 4.15 (0.74) | 3.43 (1.03) |
| 特性8 | A | 3.19 (1.11) | 2.00 (0.89) | 2.69 (0.70) | 4.38 (0.62) | 4.44 (0.62) | 4.06 (0.85) |
| | B | 2.77 (1.05) | 2.02 (0.80) | 2.49 (0.83) | 3.93 (0.92) | 4.08 (0.82) | 3.47 (1.05) |

※有意差の見られなかった特性は省略している。

表7 性格的特性3の「音読」の「やりたい」と他の項目間相関係数

| | | やれそう | 役立ちそう | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|-----|---|------|-------|------|------|-----|------|------|-----|
| 特性3 | A | .76 | .51 | -.15 | -.17 | .10 | .02 | -.05 | .03 |
| | B | .64 | .25 | -.01 | .18 | .12 | -.01 | .12 | .26 |

表7は特性7の「音読」の「やりたい」と他の要因と相関関係を算出した結果である。表7の結果を見ても、Aの「やりたい」と「役立ちそう」との間の相関が高い一方で、Bは「やりたい」と「役立ちそう」との間に高い相関関係は見られない。すなわち、Aの集団のように判断基準がその学習方法が役立つかどうかである場合は、続けられるかどうかも含めて「音読」が役立つと感じられればやりたいと思ひ、逆に、Bのように学習意欲があまり高くなく、学習内容に興味があるかどうかを重視する学習者の場合は、役立つとは別の要因、つまり興味の有無がやれそうに影響し、間接的、直接的にやりたい気持ちに影響を及ぼしているのではないかと考えられるのである。

「CR」の「やりたい」の項目に差があった特性は2, 4, 6であった。これ

らの特性は間違いに対する不安，他者からの評価に対する不安と学習の楽しさに関する特性である。特性2は間違いを少なくしてから実践したいか，実践を通して間違いを直していきたいかを選択する項目であり，特性6は人前で間違えることをどう思うかを問う項目であるが，実践を通して間違いを直すということは同時に人前で間違えるということを含意しているため，この2つの特性はその点において似た特性を測っていると言える。表6を見ると，特性6は「好き」「自信」のみならず「ズレ」においてAB間に差が見られる。つまり，間違いたくないという意識が強い学習者は特に自己評価よりも他者からの評価の方が高いと感じているのではないかと考えられる。すなわち，これは自分自身に対する客観的な評価だけでなく，自分の周りとの相対的な評価が重要である可能性を示していると言える。

表8の結果を見ると，特性2のB「実際に使いながら間違いを直したい」と思っている学習者集団は「やれそう」「役立ちそう」の項目においてはAよりも相関係数が低いが，「好き」「自信」「意欲」のそれぞれと「やりたい」との間にはAよりも高い相関関係が見られる。また，特性6のA「勉強中なら人前で間違えることはあまり気にならない」も「やりたい」と「自信」「意欲」の間に相関関係が見られる。先ほどの表6の結果から考えるとそれぞれむしろ逆の学習集団の方がそれらの要因から影響を受けそうであるが，特性2のA「間違いを少なくしてから実際に使いたい」を選んだ学習者集団も特性6のB「で

表8 特性2，4，6の「CR」の「やりたい」と他の項目間相関係数

| | | やれそう | 役立ちそう | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|-----|---|------|-------|-----|-----|------|------|------|-----|
| 特性2 | A | .62 | .58 | .34 | .28 | .17 | .09 | .33 | .30 |
| | B | .54 | .42 | .42 | .51 | .06 | -.02 | .20 | .47 |
| 特性4 | A | .58 | .47 | .32 | .44 | .09 | .10 | .33 | .37 |
| | B | .59 | .40 | .79 | .47 | .04 | -.38 | -.46 | .43 |
| 特性6 | A | .54 | .43 | .33 | .53 | -.03 | .08 | .33 | .40 |
| | B | .59 | .54 | .40 | .31 | .11 | .07 | .23 | .38 |

きる限り人前で間違ふことは避けたい」を選んだ学習者集団も、「やりたい」と「やれそう」「役立ちそう」の相関関係が他方よりも高いことから、それらの学習者集団に関しては、他の要因よりもコミュニケーションの有無そのものが「やりたい」「やれそう」を決定付けていると考えることができる。

特性4は楽しさを求めるかどうかに関する項目であるが、AB間でばらつきに大きな差が生じている。少数のBの方は「勉強に楽しさは求めない」を選んだ学習者であるが、表6の結果では、この集団の学習者は学習意欲や学習に対する意識が低く、「CR」に対して役立ちそうともあまり思っていないことが示されている。「CR」の学習は相手がいる学習であるため、コミュニケーションが本来持っている人と通じる楽しさのようなものを感じることができる学習である一方で、相手がいることから人に評価される不安や人に合わせる必要がある負荷の高い学習であるともいえる。そのため、そもそも学習意識が低く、学習を楽しんでやりたいという意識も低い学習者にとっては、このような学習方法は面倒で自分には役立たないと感じられているのではないかと考えられる。表8の結果を見ると、特性4のAB間では「好き」「必要」「希望」に大きな差が見られる。Bは「好き」と「やりたい」の間の相関係数が非常に高く、「勉強に楽しさは求めない」学習者にとって学習をやりたいかどうかは学習が好きかどうか非常に大きな影響を持っていることが分かる。また、「やりたい」と「必要」「希望」の間には負の相関が見られるが、他の相関を調べてみると「必要」と「希望」は、「好き」「自信」と負の相関関係が見られる(必要：好き、自信=-.19, -.62；希望：好き、自信=-.42, -.75)。つまり、自信がない学習者ほど「必要」と「希望」が高いけれども、自信がないため学習が好きではなく、その結果、学習をしたくない、という関係になっているのだと考えられる。

これらの結果から、「CR」の学習をやりたいと思えるかどうかは、実践したいという意識、つまり人との英語でスピーキングしたいという欲求と、人前で間違えることへの不安、学習に対する意欲などが影響を与えているのではない

かと考えられる。

「やれそう」の項目で AB 間に有意に差があったのは特性の 2, 6 で「CR」の場合のみであった。前述のとおり、この 2 つの特性は他者からの評価を気にするかどうかという点で共通した意識を訊いており、他者からの評価を気にする傾向が強い学習者（特性 2 の A, 特性 6 の B）は相手のいる学習をやれそうにないと感じていることが示されている。これはこの 2 つの集団内で「音読」と「CR」の間に「やれそう」で有意差が見られ「音読」よりも「CR」の方をあまりやれそうにないと感じられていることから明らかである。表 9 において注目すべき違いは、特性 6 の A の集団だけが、他と比べて「やれそう」と「好き」の間の相関が低いことである。この学習者集団は「必要」と「やれそう」の間に相関関係が見られるため、相対的に学習が好きであるかどうかの影響が下がったためではないかと考えられる。

表 9 特性 2, 6 の「やれそう」と他の項目間相関係数

| | | やりたい | 役立ちそう | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|------|---|------|-------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 特性 2 | A | .62 | .24 | .44 | .35 | .25 | .20 | .19 | .28 |
| | B | .54 | .14 | .57 | .47 | .17 | .23 | .22 | .49 |
| 特性 6 | A | .54 | .13 | .37 | .42 | -.11 | .35 | .32 | .44 |
| | B | .59 | .24 | .59 | .43 | .31 | .18 | .14 | .37 |

「役立ちそう」の項目で AB 間に有意差が示されたのは特性の 4 の「CR」と特性の 8 の「音読」であった。特性 4 に関しては表 10 を見ると、AB 間では「好き」と「役立ちそう」の間の相関に違いが見られる。これは前述のとおり、

表 10 特性 4 の「CR」の「役立ちそう」と他の項目間相関係数

| | | やりたい | やれそう | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 意欲 |
|------|---|------|------|-----|------|------|------|-----|-----|
| 特性 4 | A | .47 | .16 | .04 | .03 | -.05 | -.01 | .23 | .22 |
| | B | .40 | .27 | .35 | -.25 | -.19 | .24 | .23 | .05 |

集団Bにとっては学習を好きかどうか非常に重要な要素であるため、役立ちそうかどうかにも好きかどうか影響を与えているのだと考えられる。また、特性8は自己管理に関する特性を尋ねており、Aの集団の学習者はどちらかと言えば自分に厳しくできると判断している学習者である。多くの場合に集団内で「音読」と「CR」の間には「役立ちそう」で差が見られているが、特性8のAはどちらも高い数値を示しており、学習方法間の「役立ちそう」に差がないことが示されている。そのため、AB間で「役立ちそう」の値に有意差が見られるのである。このことから、自分に厳しくできる、つまりコツコツ学習することができる学習者の場合は一人でも学習を継続していくことができるため、「音読」のような相手のいない学習方法でも役立つと感ずることができるとは考えられる。表11に示されている結果からは、「好き」「ズレ」と「役立ちそう」との間にAにのみ正の相関関係が見られるが、これらは統計的には有意ではなかった。

表11 特性8の「音読」の「役立ちそう」と他の項目間相関係数

| | | やりたい | やれそう | 好き | 自信 | ズレ | 必要 | 希望 | 学習意欲 |
|-----|---|------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|
| 特性8 | A | .05 | .08 | .35 | -.24 | .40 | .04 | .02 | .11 |
| | B | .36 | .26 | .18 | .07 | .08 | .33 | .42 | .31 |

5. まとめと今後の課題

先行研究より学習方法をやりたいかどうかには、コミュニケーション活動の有無、興味の有無、負荷の軽重などの学習方法に含まれる要因と「やれそう」「役立ちそう」といった学習方法に対する認知的評価の要因、英語学習に対する学習意欲や不安などの学習者の情意的要因が影響を与えることが分かっているが、本調査の結果より、学習者の情意的要因のうちの学習志向に関する特性の中で「やりたい」「やれそう」「役立ちそう」に直接的、間接的に関わっている可能性がある要因を想定することができた。すなわち、本研究で対象としたスピーキングの学習方法に関して「コミュニケーションの有無」や「負荷の軽

重」に影響を与えるのは、(1)その技能を使えるようになりたいという欲求が強いかどうか、(2)自分の学力にある程度の自信があるかどうか（人からの評価と自己評価にズレがないかを含む）、(3)コツコツ学習していくことができるか、などの要因であり、「興味の有無」に関しては(4)学習効果を重視するかどうか、(5)学習内容への興味が重視するかどうか、などであることが想定できた。もちろん、これらの要因が複合的にかかわっているため、1つだけを取り上げて決定要因とすることはできないが、例えば、学習効果を重視する学習者で、コツコツと学習ができる学習者は音読のような自分だけでする学習方法を役立つと考えることができ、やりたいと思う可能性がある想定できるようになった。またコミュニケーションのある学習方法においては、英語によるコミュニケーションを取りたいとの意欲が強く自分の英語力に著しい不安感、あるいは周囲の他者からの評価と自分の評価にズレがない学習者の場合は、やりたいと感じるだろうとの想定も可能である。

今後の課題としては、本論文で扱わなかったリスニングについての調査結果の分析を進め、リスニングのような受容技能においてはどのような学習者要因が学習者の「やりたい」「やれそう」といった気持ちに影響するのかを明らかにしていきたいと考えている。

謝 辞

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究(C)（課題番号 21520618）の助成を得て行われた。ここに記して謝意を表する。

引 用 文 献

- Eherman M. and Oxford, R. L.(1988). Effects of sex differences, career choice, and psychological type on adult language learning strategies. *The Modern Language Journal*, 72, 253-265.
- Oxford, R. L.(1989). Use of language learning strategies : a synthesis of studies with implications for strategy training. *System*, 17 (2), 235-247.

- Oxford, R. L. and Nyikos, M. (1989). Variables affecting choice of language learning strategies by university students. *The Modern Language Journal*, 73, 291-300.
- Naiman, N., Frölich, M., Stern, H. H., and Todesco, A. (1978). *The good language learner. Research in Education Series 7*. Toronto: Ontario Institute for Studies in Education.
- 青木信之, 樋口慎一, 池上真人. (2001). 「日本人大学生が求める英語学習方法」『中国地区英語教育学会研究紀要』第31号, 21-30.
- 青木信之・池上真人・樋口慎一・永堀瞳. (2002a). 「日本人大学生が求める英語学習法Ⅱ－英語学習の目標及び英語力との関係－」『中国地区英語教育学会研究紀要』第32号, 127-135.
- 青木信之・樋口慎一・池上真人・永堀瞳. (2002b). 「日本人大学生が求める英語学習法Ⅲ－学習意欲を左右する要因－」『中国地区英語教育学会研究紀要』第32号, 137-146.
- 池上真人・青木信之・永堀瞳・加納亜弥. (2002). 「日本人大学生が求める英語学習法－学習意欲と情意的要因の関係－」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第48号, 126-131.
- 池上真人・青木信之・永堀瞳・加納亜弥・樋口慎一. (2003). 「日本人大学生が求める英語学習法Ⅳ－学習者の内的基準と学習意欲－」『中国地区英語教育学会研究紀要』第33号, 71-80.
- 池上真人. (2007). 「英語学習方法に対する学習意欲に関する研究－学習動機と学習意欲の関係－」『松山大学論集』第19巻5号, 95-132.
- 池上真人・青木信之・渡辺智恵. (2011). 「学習意欲に働きかける学習方法の与え方に関する研究－学習意欲に影響を及ぼす要因の検討」『中国地区英語教育学会研究紀要』第41号, 41-50.
- 竹内 理 (2003). 『より良い外国語学習法を求めて 外国語学習成功者の研究』松柏社.

(付録)

(※アンケートは紙面の都合上、一部簡略化して記している。また全て反転項目として分析している。
なお、括弧内は本文中の略語である。)

自分にあてはまるものを選び、○をしてください。

- 1.スピーキング(英会話)の学習は好きですか。(好き)
 - 1)とても好き
 - 2)まあまあ好き
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまり好きではない
 - 5)全く好きではない
- 2.自分の英語が外国人に通じるかについて、どのくらい自信がありますか。(自信)
 - 1)とても自信がある
 - 2)まあまあ自信がある
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまり自信はない
 - 5)全く自信はない
- 3.スピーキング(英会話)について、自分の自己評価と自分の周りの人からの評価にズレがありますか。(ズレ)
 - 1)周りが思う以上に自分ではできる
 - 2)周りが思っているよりもう少しできる
 - 3)自己評価と周りの評価は同じくらい
 - 4)周りが思うよりもちょっとできない
 - 5)周りが思うほどできない
- 4.自分にとってスピーキング(英会話)はどのくらい必要な技能だと思えますか。(必要)
 - 1)とても必要
 - 2)まあまあ必要
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまり必要ではない
 - 5)全く必要ではない
- 5.どのくらいスピーキング(英会話)ができるようになりたいですか。(希望)
 - 1)とてもなりたい
 - 2)まあまあなりたい
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)特にならなくてもよい
 - 5)全くならなくてもよい
- 6.スピーキング(英会話)の勉強をしたい気持ちはどのくらいありますか。(意欲)
 - 1)とても勉強したい
 - 2)まあまあ勉強したい
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまり勉強したくない
 - 5)全く勉強したくない

下の2つのスピーキングの学習方法についてお尋ねします。

- | |
|--|
| A. 問題集・会話集などを使って、音読をしたり表現を暗記したりして勉強する。 |
| B. チャットルームに参加して勉強する。 |
| (具体的には、ネイティブスピーカーの先生のところに行って、他の学生と共に英語で話をする) |

〈自分で学習するとして、以下の質問に答えてください。〉

- (1) どの程度「やりたい」と思いますか。5段階で評価してください。(やりたい)
 - A. 問題集など
 - 1)とてもやりたい
 - 2)わりとやりたい
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまりやりたくない
 - 5)全くやりたくない
 - B. チャットルーム(選択肢同じ)
- (2) どの程度「やれそう」だと思いますか。5段階で評価してください。(やれそう)
 - A. 問題集など
 - 1)とてもやれそう
 - 2)わりとやれそう
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまりやれそうにない
 - 5)全くやれそうにない
 - B. チャットルーム(選択肢同じ)
- (3) どの程度「役立ちそう」だと思いますか。5段階で評価してください。(役立ちそう)
 - A. 問題集など
 - 1)とても役立ちそう
 - 2)わりと役立ちそう
 - 3)どちらとも言えない
 - 4)あまり役立ちそうにない
 - 5)全く役立ちそうにない
 - B. チャットルーム(選択肢同じ)